

FACE



子ども達に最適な医療を 多職種チーム医療で



こども医療センターを新設しました

令和7年1月1日の総合病院と小児保健医療センターの統合に伴い、総合病院において、重度の障害児・者をはじめとする小児患者等に対し、引き続き包括的・専門的医療や福祉サービスを提供するため、小児医療に関わる全ての診療科や部門間の横断的な調整などを行う組織として「こども医療センター」を新たに設置しました。

センター長ご挨拶

私が令和2年1月より小児保健医療センターに着任すると同時に新型コロナウイルス感染流行が始まり、その対策と対応に追われました。その後、新型コロナウイルス終焉とともに今度は総合病院との統合準備という難題に取り組まなければいけないといったふうに、非常に慌ただしい日々を過ごしてまいりました。

これまで36年間の長きにわたって小児保健医療センターが培ってきた重症心身障害児・者を中心とした小児難治慢性疾患診療の経験を活かし、継続して取り組むだけでなく、こどもから大人まで切れ目のない医療の実現や地域に根差した小児医療の新しい分野開拓など、総合病院と統合することによってできることにも挑戦していきます。「こども医療センター」は「こどもの診療」に関わる様々な診療グループが1つとなり、総合病院の一員として取り組んで参りたいと思っております。今後ともよろしくご厚意申し上げます。

センター長

加藤 竹雄

京都大学医学博士
日本小児科学会
専門医・指導医・代議員
日本小児神経学会
専門医・評議員
日本てんかん学会
専門医・指導医・評議員
2021年1月より滋賀県立小児
保健医療センターに着任
愛知県岡崎市出身



小児専門機関として、神経・筋疾患、免疫アレルギー疾患、内分泌代謝疾患等の慢性疾患に対する専門的な診療を行っています。県立病院であることの強みを活かし、行政機関と密な連携をとり、新生児マススクリーニングや乳幼児健康診査からの要フォロー児の診療、ハイリスク児の予防接種、障害児医療、被虐待児への対応などの役割も果たしています。

小児神経疾患

てんかん診療においては、夜間も含め緊急時の脳波検査を行っています。長時間ビデオ脳波同時記録を積極的に行い、てんかんの診断や発作型の判断に役立っています。薬物療法難治例には外科的手術や食事療法などの非薬物療法も視野に入れて診療を行っています。筋疾患の診療では、この分野で開発が進んでいる遺伝子標的薬の治療も導入しています。

小児免疫アレルギー疾患

県内唯一である小児の「アレルギー疾患医療拠点病院」として活動しています。食物アレルギーに対して経口負荷試験を積極的に行い、アレルギーの個性に合わせた栄養指導を行っています。アトピー性皮膚炎では、従来治療に加えて、新規全身治療薬も用いています。アレルギー性鼻炎に対しては、舌下免疫療法の導入も行っています。

小児リウマチ疾患

関節の炎症性疾患に関しては、小児整形外科と連携して、関節エコーやMRI検査などを行い、診断・治療をしています。発熱性疾患の中には、原発性免疫不全症や自己炎症性疾患といった稀少疾患が隠れている場合があるため、必要に応じ、免疫能の検査や遺伝子検査を含めた専門性の高い検査・治療を行っています。

小児内分泌代謝疾患・糖尿病

小児1型糖尿病に対しては、医師、看護師、心理士、保育士などを交えた多職種チームで診療しています。心理士がチームに入ることで、子ども達や家族の心身面のサポートをしています。また、小児2型糖尿病や成長障害、思春期発来異常、各種内分泌疾患、骨疾患等の幅広い内分泌疾患について専門性の高い診療を行っています。

神経発達症・心身症

丁寧な問診や、子ども・家族との話し合いを大切に診療しています。子どもや家族の困りごと、保育所・幼稚園・学校等の困りごとを整理し、適切な診断を行うことを意識して各種の神経心理検査を活用しています。心理検査の実施、および心理カウンセリングは公認心理師が行っています。医師と心理士、子どもを取り巻く様々な人々との密な連携でより良い支援に繋がっています。

小児科 科長 兼
こども医療センター 副センター長 兼
小児保健指導室 室長

柴田 実



小児科学会
専門医・指導医
小児神経学会
専門医・指導医

心に寄り添い、明日の笑顔につなげる

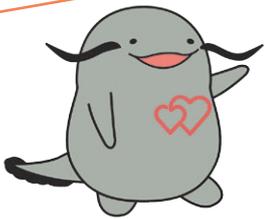
私は、子どもが病気から回復したときの元気な様子や笑顔を見ることが嬉しくて小児科医になりました。病気で苦しんでいる時には言葉を話すこともできなかった子ども達が、病気から回復してくると生き生きとした表情や活気を見せます。小児科医としての喜びを感じる一時です。

小児科医は病気を診るだけでなく、子どもの成長・発達を診ていくことも大切な役割であり、身体面だけでなく、心身面からみた総合的な疾病予防や診断・治療を行う全人的医療を行うことが求められています。子ども達が抱える病気を専門家の視点で評価・治療することが医療の根幹であることに議論の余地はありませんが、日々の診療で子ども達の訴えを聞くことや、推測すること、代弁することの大切さを感じていますし、これが小児科医に求められているものだと考えています。

私自身の子育ての経験、これまでに会った子ども達や御家族から得た経験、同僚・看護師・心理士などの医療職や地域の方々とのやりとりで得た経験、これらが私の医療者としての糧になっています。これからも皆様に教えて頂きながら、子ども達の良い理解者・支援者であり続けたいと考えています。

Information

病院統合のお知らせ



滋賀県立総合病院
イメージキャラクター「びわずん」

令和7年1月1日に滋賀県立総合病院と滋賀県立小児保健医療センターは統合し、新しい「滋賀県立総合病院」となりました。

総合病院が充実させてきた「がん診療」や、小児保健医療センターが小児専門病院として担ってきた「難治・慢性疾患の治療」はしっかりと継続し、これまで以上に診療科間、部署間の連携を深め、高いレベルの医療を実現します。

ご意見・ご感想募集

滋賀県立総合病院広報誌「FACE」へのご意見やご感想をぜひお寄せください。

お住まい、年齢、ご意見・ご感想を下記フォームよりお送りください。

滋賀県立総合病院の広報誌
「FACE」に関するアンケートフォーム



笑顔で患者に寄り添いチームで取り組む姿勢を基本とし
子どもから大人まで安心・信頼・満足の得られる高度かつ専門的な医療の実現

 **滋賀県立総合病院**
Shiga General Hospital

〒524-8524 滋賀県守山市守山5丁目4番30号
TEL.077-582-5031(代) / 0570-00-5031(ナビダイヤル)
[診療受付時間] 午前8時30分～午前11時 ※2科受診の患者様を除く
[休診日] 土曜日・日曜日、祝祭日/年末年始(12/29～1/3)
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/index.html>

滋賀県立総合病院

病院HP



FACE

滋賀県立総合病院広報誌

発行：滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)
発行日：2025年3月

バックナンバーも
ご覧いただけます

